

〔1〕

問1.

古代ギリシアでは、海岸線の形状や河川の流路などの戦略的情報を中心に、地中海世界からメソポタミアやカフカス地方一帯についての科学的に正確な知識が保有されていた。しかし、中世キリスト教時代になると、エルサレムを中心として上部にパラダイスが描かれるT O図に見られるようなキリスト教の教義に基づく世界観が支配的になり、不正確な知識が広がった。その後大航海時代になると、再度科学的に正確な知識が保有されるようになっただけでなく、その空間的な広がりも新大陸地域や極東地域にまでおよぶグローバルなものになった。(248字)

問2.

メルカトル図法は、図上の2点を結ぶ直線がその間の等角航路を示し航海図に適するが、高緯度ほど拡大されて両極地方を描けない。また、基本的に正方位、正距離ではない。一方、Cの地図に見られる図法は、高緯度地方の拡大が抑制されて両極地方を描けている。しかし、等角航路や大圏航路を示すことはできず実用性に乏しい。(150字)

〔2〕

問1.

Aーオーストリア Bーイギリス Cーイタリア Dーギリシャ
Eーチェコ Fールーマニア

問2.

経済的に豊かなドイツやフランスなどの国と経済的豊かでない中・東欧諸国との間に大きな地域間格差が存在し、両者の間に労働力や資本の受入・送出などを巡る利害対立が発生している。具体的には、中・東欧諸国では賃金の高い国へ労働力が移動したことで国内の若年労働力や医者、弁護士などの知識層の不足が問題となっている。またドイツなどでは、工場が労働費の安い中・東欧諸国に進出したことで産業の空洞化が生じている。さらに、財政危機に見舞われたギリシャなどの南欧諸国や中・東欧諸国などの経済支援の問題を抱えている。(246字)

問3.

域内農業保護を目的に、統一価格制度や輸入課徴金制度が設けられた。しかし、この影響で生産過剰状態が誘発され、余剰農産物の処理のための輸出補助金の給付が必要となり、財政負担を巡って加盟国間に利害対立が生じた。このため生産過剰状態を誘発しないように統一価格の引き下げを図ったり、生産性と国際競争力の向上および持続可能な農業の実現のために補助金を給付するといった軌道修正を実施することが課題となっている。

(198字)

問4.

グレートブリテン島から移住したプロテスタントの多い地域が独立せずにイギリス残留を選択した結果、分離独立を指向する少数派のカトリック系住民と多数派のプロテスタント系住民が対立し、紛争が誘発された。(99字)